

毎週日曜発行
2023 9/3

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



みんな 子ども だった!?

41

今年1月、東日本大震災後の日々を描いた「荒地の家族」で第168回芥川賞を受賞しました。「小学生の頃は本よりアニメ派だった」という佐藤さん。どんな子ども時代だったのか教えてもらったよ。

本に親しむ環境で育っていないんです。両親と兄と弟の5人家族ですが、読書の習慣も大きな本棚もない。父は初めて読んだ小説が僕の作品

きょうのテーマ



さとう・あつし 1982年仙台市生まれ。東北学院大文学部卒。2017年「蛇沼(へびぬま)」が新潮(しんちょう)新人賞を受けデビュー。20年「境界(きょうかい)の円居(まどい)」で仙台短編(たんぺん)文学賞大賞、21年「象(ぞう)の皮膚(ひふ)」で三島由紀夫賞候補(こうほ)。丸善仙台アエル店勤務(きんむ)。

佐藤 厚志さん(41歳・作家)

今年1〜7月に河北新報朝刊で連載した小説「常盤団地第三号棟」は、団地暮らしの小学3年の少年が主人公。友達との小さな冒険や人間模様を描きました。僕が北上で経験した団地暮らしの記憶をちりばめています。

仙台で生まれ、今も仙台暮らしています。父の転勤で幼稚園から中学1年まで

「好き」を追う大切さ実感

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

で北上市や鹿角市で過ごしました。本を読むより友達と自然の中を駆け回っていました。通信簿に「落ち着きがない」と書かれるタイプです。

「物語」には小学生の頃から夢中でした。毎日、早朝と夕方に新旧のテレビアニメが放送されていたんです。キン肉マン、ガンバの冒険、ムーミン、ユニコ…。テレビの前で主人公と仲間の友情や冒険にわくわくし、現実世界で落ち込んだ日も元気をもらいました。



本に親しむようになったのは中学時代。友達が図書館に本を返却するのに付き合っただけです。そこで、友達に世界文学シリーズを紹介され、「トムは真夜中の庭で」

(フィリパ・ピアス)を手にとって読んだら引き込まれた。

アニメのように「物語を見せてくれる面白いコンテンツを見つけたぞ」という気持ちでした。そこからどんどん読書が好きになりました。



鹿角市の中学時代、先生に恵まれて英語が好きになったので、大学は文学部英文科へ。授業で大江健三郎の「新しい文学のために」を読み、小説のための言葉の使い方、何げなく読んでいた小説への意識が変わりました。

20代半ばで作家を目指して以来、自分にはこれしかないと思ってきました。冷やかされても、誰かにちよっぴり迷惑をかけても構わない。「好き」を追いかける大切さを、執筆に追われながら日々実感しています。

今週の注目ニュース

◇8日(金) ラグビーW杯フランス大会開幕
ラグビーのワールドカップ(W杯)フランス大会が始まります。日本は1次リーグで強豪イングランドなど4チームと対戦します。日本のジャージーのデザインはかぶとをモチーフにしています。

今日の紙面

- 2面 ラグビーW杯特集
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー